

単元名 アンサンブルの楽しさ

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と声部の役割など音楽の構造との関わりに気付くとともに、互いの楽器の音を聴き、音を合わせて演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律やその関わり合い、リズム、楽器の音色や全体の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもったり、演奏のよさや面白さを見いだして聴いたりすることができる。
- (3) 曲想や各声部の役割を捉えた表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070301_001

【教材名】せいじゃの行進（歌唱 器楽 鑑賞）（P.50～P.51）

【準備等】範唱CD、鑑賞CD、リコーダー、鍵盤ハーモニカ、シンセサイザー、鉄琴、打楽器など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 「せいじゃの行進」を、パートの役割に気付き、旋律や音の重なりを生かして演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「せいじゃの行進」の主旋律を歌詞唱する。 <ul style="list-style-type: none"> 範唱CDを聴き、学習課題をつかむ。 ★パートの役割を生かしてえんそうしよう <ul style="list-style-type: none"> 休符に気を付け、歌詞唱する。 リズム打ちしながら主旋律を歌詞唱する。 鑑賞CD「せいじゃの行進」を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> 体を動かしながら、曲の気分を感じ取って聴く。 範唱CDの「せいじゃの行進」との感じの違いを捉える。 演奏で使われた楽器について説明を聞く。 楽曲に合わせてリズム打ちをする。 「せいじゃの行進」の主旋律を楽器で演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> 主旋律をドレミで歌詞唱する。 リコーダーで演奏する。 「せいじゃの行進」の旋律と副旋律のパートを楽器で演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> 前時を振り返り、主旋律を歌詞唱した後、リコーダーで演奏する。 2の副旋律のパートを階名唱し、リズムに注意しながら楽器で演奏する。 1と2に分かれて全員で合わせる。 担当するパートを決めて練習する。 <ul style="list-style-type: none"> 各パートの担当を決め、パートごとに集まって練習する。 低音パートを階名唱し、鍵盤を確かめ、拍にのって楽器で練習する。 合奏をする。 <ul style="list-style-type: none"> 全体で合わせてみる。 「せいじゃの行進」のパートの関わり合いや役割に気付く。 <ul style="list-style-type: none"> 楽譜を改めて見て、2が1を追いかけるところや、重なるところを見付ける。 教科書の記入欄を利用し、パートの役割について考える。 1と2のパートの人が数人ずつ出て、低音やリズム伴奏も加わって合奏する。 演奏する人を交替して聴き合い、気付いたことを伝える。 全員で合唱奏をする。 <ul style="list-style-type: none"> 主旋律を歌う人を決める。 歌の人はリズム打ちをしながら歌い、合奏と重ねて全員で合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2拍子のリズムにのった、弾んだ感じの曲であることをつかませる。 フレーズの冒頭の8分休符や、フレーズの後の4分休符、後半のタイの音に気を付け、拍にのって歌うようにさせる。 足踏みだけ、手拍子だけでもよい。 同じメロディーの曲でも、演奏する楽器やリズム、速さで曲想が違うことを理解させる。 演奏の中で使われた楽器がある場合は、教師が実演したり、児童に持たせたりして親しませる。 曲に合わせて、リズム伴奏を打ったり、体を動かしたりしてもよい。 打楽器を入れると楽曲の感じが変わること気付かせる。 【評】旋律やその関わり合い、リズム、楽器の音色や全体の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 フレーズの冒頭の8分休符や、フレーズの後の4分休符、後半のタイの音に気を付け、拍にのって演奏するようにさせる。 主旋律・副旋律とも、拍にのって演奏するようにさせる。 速さを合わせて演奏する。最初はゆっくり合わせ、音の重なりを確認させる。 【共通事項】よびかけとこたえ 音の重なり 【評】互いの楽器の音を聴き、音を合わせて演奏する活動を通して「技能」を評価する。 〈楽きのれい〉を参考に楽器を考えさせる。 低音パートは希望者が交替で練習する。速くならないよう、拍にのって演奏することを確認する。 打楽器と低音だけで合わせて練習するのもよい。音が強くなり過ぎないように注意する。 1と2は5名くらいずつ演奏するとよいが、学級の実態に合わせるようにする。 【評】曲想や各声部の役割を捉えて演奏する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】